

教育目標	1. 国際社会ですこやかにたくましく生き抜く基礎・基本を培う。 2. 個性や特性を大きく伸ばし豊かな想像力を養う。 3. 社会に貢献できる能力・態度を育てる。			
目指す学校像	1. 単位制高校の特長を活かして、「基礎・基本を大切に教育」と「個性・特性を伸長する教育」を実践し、生徒の進路希望を実現する学校 2. 互いの人格を尊重し、学校及び社会における基本的なルール・マナーを身に付け、規範意識をもった豊かな人間性を育成する学校 3. 勤労を尊び、社会に貢献できる能力・態度を育て、生涯にわたり学ぶことの大切さを会得させる学校			
中期目標と方策				
知・徳・体のバランスのとれた21世紀に必要なスキル「生きる力」を身に付けさせる。基礎的・基本的な学力の確実な定着と、進路実現に向けた学力の向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てる。生徒が安心・安全に学べ、充実した学校生活を送ることができる魅力的な学校づくりに全力で取り組む。				
中期目標と方策	今年度の取組目標と方策	今年度の重点目標と方策	結果 * ( ) 内は前年度の数値	
全体	1 【学習指導】 基礎的・基本的な学力の定着、主体的な活動の醸成を図り、進路実現に向けた学力の向上を目指す。単位制の特長を活かし、個に応じた履修指導を行い、3年間での卒業率を高める。	①基礎的・基本的な学力の定着へわかりやすい授業を工夫する。 ②外国籍生徒に日本語指導を充実させる。	○基礎的・基本的な学力の定着 ○進路実現に向けた学力向上 ○年間授業時間の確保とわかる授業の実践 ○日本語指導の充実	○3年間での卒業率95% 93.5 (94.4%) ○学校の取組への満足度90%以上 94(77%) ○昨年度に比べ、対面式での授業を中心に実施できた。生徒の個々の学力や日本語能力に差があるため、分かる授業をめざしているものの、向上心のある生徒をどう向上させるかの課題もある。 ○学校設定科目「日本語」はさらに充実し、日本語検定のN1～4に合格する生徒がいた。今後とも外国人生徒の日本語能力の向上を図りたい。
	2 【進路指導】 1年次からのキャリア教育を全校体制で行い、自己の生き方を考えさせ、勤労観・職業観を育成し、将来設計を考えさせる。	①計画的な進路指導により、自己理解を進めさせる。 ②生徒の志望、適正にあった進路の開拓、特に外国籍生徒の進路開拓を図る。 ③進路行事を通して勤労観、職業観を育成する。	○進路部、学年、教科が連携し、個々の生徒の状況を把握し丁寧な進路指導を充実させる。 ○外国籍生徒の進路について、将来設計に基づいた進路指導を行う。	○検定合格者5名以上 10名(0名) ○進路行事の充実、カタリバなどの外部機関と連携し、年間を通して充実した活動ができた。 ○個別相談の充実 進路決定率70% 84% (37%) 個別に面接や進路相談を行い、丁寧な進路指導の結果、進路決定率は目標値を大きく上回った。外国人生徒の進路についての課題は大きく、今後とも情報収集や個別の指導が重要になる。
	3 【生活指導】 ルール・マナーを遵守する指導を充実し、自己指導能力を育成する。健康的で安全な学校生活への指導の充実。オリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際化する社会での生きる力を培う。	①社会生活の基本的なルールを守らせ、規範意識を向上させる。 ②生徒一人ひとりへのきめ細かい指導 ③教員の情報共有により個々の生徒への丁寧な指導 ④オリパラを通して国際理解を深める。 ⑤新型コロナウイルスへの効率的、効果的な対応をふまえた教育活動の実施	○全校体制で、ルールやマナーなど社会で生きるための規範意識を育てる。 ○オリ・パラ教育を推進する。 ○生徒とのコミュニケーションをとり生徒理解を深め、個々の状況に応じた生徒指導を心がける。 ○オリパラの講演会等の実施 ○新型コロナウイルス	○充実した学校生活90% 84(63%) ○特別指導の件数5件以下 3件(2件) ○予定していたオリパラ観戦はコロナ対応のため中止となった。 ○コロナ対策は、指導を繰り返し、校内でのクラスターはなかった。 ○生徒会で学校紹介の動画を作成し、東京都のHP「まなびゅー」で公開した。 ○特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーを中心に、特別支援委員会を開催し、教員間での情報共有を図った。

		ス情報の教職員間の情報共有と生徒への周知、注意喚起	
4【特別活動・部活動】ホームルーム、生徒会、学校行事、部活動を通して、集団の一員としての自覚や行動力、社会貢献への自主的な態度を身に付けさせる。活動を通して成就感や自己肯定感を高め、生徒の可能性の伸長を図る。	①HR活動、学校行事への主体的な参加を指導する。 ②学校行事、部活動により、集団の一員としての意識をもたせ、自己の役割を認識させる。 ③集団での活動を通じ他者と協調し、協力する精神を培う。	○ホームルーム活動、学校行事、部活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を高める。 ○様々な活動を通して達成感、成就感が得られるよう指導する。	○学校行事が工夫されている 90% 84%(61%) ○学校行事・部活動への満足度 90% 72%(62%) ○数字的には昨年度より上昇しているが、大半の生徒が行事や部活動の無い学校生活を当たり前と認識しているためと思われる。コロナ感染防止のため、文化祭、修学旅行等中止になった行事も多く、次年度は再開すること、コロナ下でも工夫して実施することを検討する。 ○自転車部やバドミントン部、美術部等が大会に出場し、それぞれ結果を収めた。活動に制限のあるなかで、今後とも活動を支援する。
5【健康・安全】心身ともに生徒の健康保持に努め、安全で快適な学校生活が送れるよう環境の整備に努める。生徒一人ひとりの状況を把握し、個別の指導や相談を組織的に行う。	①学校安全計画の策定、防災や安全に関する指導を学校・家庭・地域と連携して実施 ②カウンセラーと連携し教育相談体制を強化 ③健康づくり、体力づくりの指導を実施 ④生徒の健康、発達の把握、特別支援教育、食育の推進	○防災、健康、安全、個人情報保護など、学校危機管理や安全管理について、全教職員で取り組む。	○悩みをよく聞いてくれる 90% 93%(67%) ○健康面でのアドバイスがある 90% 88%(63%) ○いじめ体罰ゼロ ○給食の喫食率 90% 85%(48%) 給食の喫食率は上がった。黙食も2年目になり、慣れてきたことも理由と考えられる。 ○特別支援委員会の定期的な開催や専門家による教員向け講演会、通級の運用など、様々な取り組みを行った。
6【広報活動】定時制普通科単位制や、日本語教育等の本校の特長を積極的に発信し、地域や外部機関と連携し開かれた学校づくりを推進する。	①三修制で多様な科目選択といった本校の特色を積極的にPRする。 ②引き続きホームページの充実を図る。 ③中学校等への情報提供を積極的に行う。	○学校説明会で本校の特色についてわかりやすい説明 ○中学校訪問など、中学校、特に夜間中学校と連携する。 ○ホームページの更新を行い、地域・中学生等へ情報発信する。	○学校説明会等参加者数 70名 26名(34名) ○HPの更新回数 100回以上 300回(100回) ○学校説明会への参加者が減少した。本校に限らず、他の定時制課程も減少している。本校の場合、ここ数年は外国人生徒が大半を占めていたため、コロナ感染拡大により入国する外国人が減った影響も大きい。 ○HPの更新は回数をかなり増加させ、学校の教育活動や生徒の様子が十分に情報発信できた。
7【学校経営・組織体制】教育公務員としての高い使命感・倫理観を持ち、服務規程を遵守する。協働意識をもち、ライフ・ワーク・バランスを図る。	①服務規律の徹底 ②個人情報の管理 ③情報の共有化と会議の効率化	○組織的な学校運営を推進し、諸課題の解決を図る。 ○現在の業務遂行について検証し、効果的・効率的な業務を目指す。 ○学校事故、服務事故ゼロを継続する。	○服務事故防止研修の実施 3回(3回) ○服務事故ゼロ 0件(0件) ○会議議事録による情報共有 ○情報共有が不足している場面が年間を通じて見られた。日頃からのコミュニケーションを活性化し、お互いの意思疎通を図り、共通認識を持つようにする。

<p>教科</p>	<p>8 教育改革、入試制度改革の動向を見据えた、指導体制・指導方法・指導内容を研究し、教科としての一層の指導の充実を図る。生徒が主体的な学びを行う場を授業に取り入れる。</p>	<p>①学力スタンダードに基づいて指導、評価を工夫し学力向上を図る。 ②個別指導を充実させ、長期休業中の講習・補講を開講する。 ③ICT、アクティブラーニングにより生徒の主体的学習を推進する。 ④教科会により授業改善、授業力向上に努める。</p>	<p>○学力スタンダードに基づいた、目標水準の設定 ○教科会を活用した教科での協力した指導体制 ○新指導要領に基づいた主体的な学びの導入 ○わかる授業の実践と個々の生徒への丁寧な指導 ○Teams等のデジタル技術を活用した教科指導を進める。</p>	<p>○「授業が工夫されている」の生徒肯定的評価80% (76%) ○昨年度とほぼ同様の数値だった。日本語の能力や既習内容に差があるため、個々の対応を求められる場面も多い。また、わかりやすくするために、進度が遅れたり、学習内容が少なくなることもあり、上級学校への進学を希望する生徒への対応も考えていなくてはならない。 ○教員個々には工夫が見られ、英語による補足やわかりやすい説明を心がけるなど、外国人生徒を意識した工夫を行っている。</p>
<p>学年</p>	<p>9 進路部や生徒部と連携し、主体的に行動する生徒の育成を図る。時間や規律と節度の育成を目指し、基本的な生活習慣を確立できるよう指導する。コミュニケーションや人間的なふれあいを大切に、人権尊重の教育を推進する。</p>	<p>①面談等により生徒個々の状況を把握し、家庭と連携した指導を図る。 ②HR活動を通して、主体的な姿勢を培う。 ③進路部と連携し将来設計を考えさせる。</p>	<p>○家庭と連携した生徒指導、進路指導の充実 ○個々の生徒とコミュニケーションをとり、生徒理解を深めた指導を心掛ける。 ○規範意識を育て、授業に積極的に取り組む姿勢を育てる。 ○進路部と連携し将来設計を見据えた進路指導</p>	<p>○各学年の進級率95% 91.1% (94.4%) ○中退者数15名以下 6名(11名) ○一日あたりの遅刻者数3名以下 1.7名(0.2名) ○昨年に比べ、中退者は減ったが、生徒全体の数も減っているため、中退率が大きく減ったわけではない。生徒個々に中退理由は異なるが、カウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭を中心として、教員全体で生徒の個々の状況を把握し適切な指導を今後も心掛ける。</p>
<p>部活動</p>	<p>10 部活動の活性化を図り、生徒の能力・意欲・感受性を伸ばさせ、集団の一員としての意識を高めさせる。活動の中で成就感や自己肯定感を持たせる指導を行う。</p>	<p>①部活動の参加を推進し、活動内容の充実を図る。 ②大会参加、発表に参加させ、成就感、自己肯定感を得られるよう指導する。</p>	<p>○部活動加入率の向上 ○外部大会への参加、外部大会、文化祭での発表の充実</p>	<p>○部活動加入率55% 41.0%(57.5%) ○都大会以上の公式戦、大会出場5件以上(2件) ○コロナ感染拡大のため、部活動に制限がかかり、そのため加入率も減少している。そのなかでも、自転車部、バドミントン部、美術部などが大会参加し活躍した。 ○通常の活動が再開された際は、積極的に勧誘し、各部活の活性化を図る。</p>
<p>教務部</p>	<p>11 単位制の特長を活かした教育活動の環境整備を進め、新教育課程編成に向け、組織的・計画的に質の向上を図るカリキュラムマネジメントを推進する。</p>	<p>①新指導要領に基づいた新しい教育課程の編成 ②成績処理システムを活用した成績の適切な処理 ③入選業務の適切な遂行 ④外国籍生徒の学習環境の整備 ⑤明海大学と連携した日本語指導</p>	<p>○新教育課程の完成 ○成績処理システムの管理運用 ○日本語教育等、外国籍生徒の学習環境の整備 ○明海大学と連携した日本語指導</p>	<p>○入学者選抜業務事故ゼロ ○入試はコロナ感染拡大防止のため、例年と異なる点が多い中で、事故もなく適切に実施した。 ○教務関係では、これまで明文化されずに運用されてきたことも多く、今年度は整理し明文化に取り組んだ。若い教員も多く、少人数の定時制のため、今後も明文化し、共通な認識のもとでの運用を図る。 ○日本語教育については学校設定科目を中心に充実できた。次年度は、より充実させ、日本語検定受検を勧め、外国人生徒の進路希望実現を目指す。</p>

生徒部	<p>12 社会生活における基本的なルールを守らせ、規範意識の向上を家庭や職場と協力し進める。学校行事や部活動への積極的な参加を促し、集団や社会の一員としての意識や自己肯定感を高める。</p>	<p>①未然防止や予防的指導を徹底し安全安心な学校生活を構築する。 ②地域からの声に迅速に対応、信頼される学校づくりをめざす。 ③校外の巡回を通して、生徒の問題行動の防止に努める。</p>	<p>○規範意識を高める指導 ○行事等を充実させ、帰属意識を高め、達成感を得られるよう指導する。 ○事故や問題行動等の未然防止、予防的指導を進める。</p>	<p>○特別指導件数5件以下 3件(3件) ○特別支援教育に関する委員会15回 19回(15回) ○特別指導の件数は昨年と変わらず、喫煙等の指導があった。近隣からの苦情もなかったものの、登下校時の校門指導や近隣への見回りなどにより、問題の未然防止を今後とも図っていく。特別支援委員会は定期的に開催でき、教員間での情報共有を図った。講師を招いての特別支援に関わる教員研修会を開くなど事故や問題行動の未然防止に向けた対策を行った。</p>
進路部	<p>13 進路情報や進路資料を整理し、教員間での共通理解が図れるよう積極的な情報提供を行う。1年次からの継続的・計画的なキャリア教育を充実させる。</p>	<p>①総合的な探究の時間にキャリア教育を行う。 ②進路講話や講演会等の進路行事を充実させる。 ③個々の生徒の実態に応じた適切な進路指導ができるよう体制を強化する。</p>	<p>○学年と連携し、生徒の個々の状況に応じた進路指導を行う。 ○総合的な学習の時間やホームルームを活用したキャリア教育 ○外国籍生徒の個々の状況に応じた進路指導</p>	<p>○日本国内での進路希望者の進路決定率70%84%(40%) ○大学現役合格者数5名 3名(1名) ○総合的な探究の時間やホームルームを活用し、外部人材を講師としたキャリア教育を充実させることができた。 ○外国人生徒の進路も含め、個々の生徒への丁寧な進路指導の結果、進路決定率は目標値を大きく上回ることができた。 ○今後とも、少人数の生徒に個々の丁寧な指導を継続していく。</p>
経営企画室	<p>14 計画的な予算執行を心がけ、校内関係部署と連携し円滑な教育活動を支援する。</p>	<p>①管理職、関係教員と連携をとり、円滑な業務を実施し、業務の省力化を心掛ける。 ②複数対応、連絡、相談、報告を行い、服務事故防止を目指す。 ③丁寧で温かい窓口対応</p>	<p>○施設の老朽化への対応 ○計画的で効率的な予算執行 ○関係部署との緊密な連携</p>	<p>○一般需用費のセンター執行割合65% 41%(57%) ○体育館の照明工事、冷房工事を夏に行った。 夏場も涼しく、冬も温かく、夜間の定時制においては、快適に活動ができるようになった。 スポーツだけではなく、行事でも活用している。次年度は、壁面の補修を実施する。老朽化している箇所や物品を今後も更新していく。 ○誤配送による個人情報の漏洩の事故が発生した。二度と起きないように、複数による確認など、防止策を徹底する。</p>